

S29 cm級測位装置を用いた屋外におけるPMV経路ナビゲーションシステムの実装と評価（ポスターセッション：シニア部門）

著者	成嶋 智弘, 安藤 隆史, 仲秋 喬介, 木谷 友哉
雑誌名	発表予稿集：情報学シンポジウム
巻	2017
ページ	27-27
発行年	2017-10-14
出版者	情報学シンポジウム実行委員会
著者版フラグ	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10297/10472

cm 級測位装置を用いた屋外におけるPMV経路ナビゲーションシステム の実装と評価

成嶋智弘 (情報科学科), 安藤隆史 (情報科学科), 仲秋喬介 (情報科学科), 木谷友哉 (情報科学科)

次世代自動車として期待を集めているPMV (パーソナルモビリティビークル) は高齢化が問題視されている日本においても、新たな移動手段として需要が見込める。今の日本では公道使用上の法規制が十分にされていないこともあり、利用者が少なくデータがない。そのため、観光社会実験を通して一般人からPMVのデータを取得し、PMVの安全性を定量的に評価する。

本実験は、はままつフラワーパークの観光事業としてPMVの園内観光する企画で行った。未経験者である20代から80代の操縦者の、PMV走行中におけるセンチメートル級の位置情報及び慣性運動センサーによる走行データを取得している。取得したデータからPMVの安全性の検証及び観光の新しいサービスの提案のための基礎データとしての活用を目的とする。

(木谷研究室)

子育て世帯を対象としたサービスプラットフォーム開発の実践と評価

金原大河 (総合科学技術研究科情報学専攻)

男性の育児参加率の伸び悩み、子育て知識の不足、共働き世帯の増加など、日本の育児問題は数多く存在する。この現状を改善するためにはICT的な側面からのサポートが必須である。しかし子育てICTサービスは数多くあれど、その中に決定的なプラットフォームと呼べるサービスは存在していない。

本研究ではNPO法人はままつ子育てネットワークびっぴ、NTTドコモと共同で子育てプラットフォームの開発・評価を3ターム行う。3度の実践・評価を通じて子育て世帯に必要とされるICTサービスとはどのようなものなのかという点と子育てプラットフォームビジネスモデルの設計という点に特に着目して研究を進めていく。

子育て世帯に必要とされるICTサービスという点に関しては、3度の実証実験を通じモニタを集め試用することでサービスの定性的な評価を行う。子育てプラットフォームのビジネスモデルという点については「レイヤー構造」「間接的ネットワーク効果」「エコシステム」「アマチュアエコノミー」という点からビジネスモデルを設計し、サービスに組み込んでいく。

(遊橋研究室)